

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	キャリア教育	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	山下 将司
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	1	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	火曜 6限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ（思いやりの心）を理解し、セルフマネジメント（自己管理）とチームマネジメント（協働作業）が実践的にできるようになるための科目である。 ※実務者経験：シンガーソングライター「春翠」のギタリスト、マネージメントサポートとして、Live Like a Lilyレーベルよりリリース。その他演奏サポートやインストラクター、PAエンジニアやアーティストマネージメントなど、名古屋を中心に多岐にわたって活動。							
【到達目標】 1. セルフマネジメント（自己理解）を実践できる 2. チームマネジメント（協働作業）を実践し、集団での役割を果たすことができる 3. 自己の働く意義（勤労観・職業観）を説明できる 4. 目指す業界を理解し、その特徴を説明できる 5. 自己実現（夢をかなえる）のための目標設定をし実践できる							

授業計画・内容	
1回目	集団（クラス）づくりの理解と実践（集団の中での自己の学校生活の土台づくりを行う）
2回目	サポートアンケート実施。その他のインフォメーション 働く意義（勤労観・職業観）を理解し考える
3回目	学園祭を盛り上げるためにはどうすれば良いか？「集団での役割」の理解と実践
4回目	ネットリテラシー「集団での役割」の理解と実践
5回目	「集団での役割」の理解と実践 <学園祭準備活動>
6回目	グループワーク：業界が求める人材を理解し、自己の目標を設定する
7回目	グループワーク：業界研究と自己の進路を考える ①
8回目	グループワーク：人としての「在り方・生き方」を考え、自己の進むべき方向を定める
9回目	グループワーク：希望進路を達成するための人間力を理解し、自己の現状を振り返りを行う
10回目	グループワーク：夢への一步を踏み出す勇気を身につける
11回目	グループワーク：業界研究と自己の進路を考える ②
12回目	グループワーク：セルフマネジメント（自己理解）とチームマネジメント（協働作業）の振り返りを行う
13回目	グループワーク：振り返りとこれからの目標設定を行う
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学習	1. 日々の学校生活を学習ポートフォリオに書く 2. OB・OGセミナー、新人発掘プレゼンテーション、企業説明会に参加する 3. 海外実学研修、外部イベント校外学習に参加する 4. 事前課題など各種レポートを書く
評価方法	1. 課題成果（50%） 2. 出席率（50%）
受講生への メッセージ	自分の強みを武器に自分らしさとは何かを発見していきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 筆記用具 iPad	

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	キャリア教育	必修選択	必修	年次	1	担当教員	山下 将司
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	1	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	火曜 6限

【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ（思いやりの心）を理解し、セルフマネジメント（自己管理）とチームマネジメント（協働作業）が実践的にできるようになるための科目である。

※実務者経験：シンガーソングライター「春翠」のギタリスト、マネージメントサポートとして、Live Like a Lilyレーベルよりリリース。その他演奏サポートやインストラクター、PAエンジニアやアーティストマネージメントなど、名古屋を中心に多岐にわたって活動。

【到達目標】

1. セルフマネジメント（自己理解）を実践できる
2. チームマネジメント（協働作業）を実践し、集団での役割を果たすことができる
3. プロフィールシート作成ができるようになる

授業計画・内容	
1回目	自己理解 ① 働く意義（勤労観・職業観）を理解し考える
2回目	自己理解 ② 自己PR/プロフィールシート作成 <自己PR ・ 趣味特技>
3回目	自己理解 ③ 自己PR/プロフィールシート作成 <専門分野 ・ 関心事>
4回目	自己理解 ④ 自己PR/プロフィールシート作成 <志望動機 ・ 立志作文>
5回目	企業研究 ① 新人発掘プレゼンテーションに向けての準備を行う ①
6回目	企業研究 ② 新人発掘プレゼンテーションに向けての準備を行う ②
7回目	企業研究 ③ 新人発掘プレゼンテーションに向けての準備を行う ③
8回目	社会人準備 ① 夢をかなえた先輩たちの「行動の原則 +α」を学ぶ
9回目	社会人準備 ② 夢をかなえた先輩たちの「行動の原則 +α」を学ぶ
10回目	社会人準備 ③ マネー教育（収入と支出のバランスを学ぶ）
11回目	「集団での役割」の理解と実践 ① <WeareNSM準備活動> ・ 自己理解と進級発表の準備を行う ①
12回目	「集団での役割」の理解と実践 ② <WeareNSM準備活動> ・ 自己理解と進級発表の準備を行う ②
13回目	進級発表 リハーサル
14回目	進級発表 リハーサル
15回目	進級発表 本番
準備学習 時間外学習	1. 日々の学校生活を学習ポートフォリオに書く 2. OB・OGセミナー、新人発掘プレゼンテーション、企業説明会に参加する 3. 海外実学研修、外部イベント校外学習に参加する 4. 事前課題など各種レポートを書く
評価方法	1. 課題成果（50%） 2. 出席率（50%）
受講生への メッセージ	自分の強みを武器に自分らしさとは何かを発見していきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
筆記用具 iPad	

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	音楽理論 I (musical theoryI)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	渡辺智哉
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	2	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	水曜4.5
【授業の学習内容】 音楽の言語となるもので、音楽コミュニケーションの基本から学び、 楽譜からアレンジまで実践的な要素も習得する。 ※実務者経験：ルネ音楽教室代表。自身のバンドやサポート・セッションギタリスト、インストラクターとして、名古屋を中心に15年以上活動が続けている。							
【到達目標】 音名を知ることから始め、5線に書かれた楽譜を読めるようにする。 また、メジャースケールや5度圏など、調性についての知識を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	楽譜の歴史を知る。
2回目	音名を知る。
3回目	音符・休符
4回目	拍子記号
5回目	反復記号
6回目	スコアリーディング及び確認テスト
7回目	メジャースケール
8回目	メジャースケール
9回目	メジャースケール、5度圏、調号
10回目	メジャースケール、5度圏、調号
11回目	記譜法、臨時記号
12回目	記譜法、臨時記号
13回目	テンポ、強弱記号
14回目	スコアリーディング及び期末テスト予習
15回目	期末テスト
準備学習 時間外学習	
評価方法	評価はGPA制度 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59～0点 F不合格 試験80%、出席・授業態度20%
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 教科書、iPad、授業プリント	

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	イヤートレーニング (Ear Training)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西村 守
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	2	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	木4.5
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 作曲に必要なリズム音程の聞き取りを習得する。 音を聞き分けたり、音程感やリズム感を養うものとして、 身の回りの音から創造力を習得する。 ※実務者経験：串田アキラ、宮内タカユキのサポートギタリストを務める。グレン・ソーベル(インペリテリ、トニー・マカバイン)等と共に師の教則DVDのレコーディング、LIVEシューティングに参加し、楽譜メーカーのモニター・デモンストレーターとしても活躍。							
【到達目標】 音を聞き取り、楽譜を正確に書ける。							

授業計画・内容			
1回目	3、4拍子のビート感覚がわかる。2度の音程が歌える、聴き取れる。		
2回目	全音、半音の違い、8分音符、C～Eの音を聴き取れる。		
3回目	M.mの意味が理解できる。1、8度を聴き取れる。歌える。		
4回目	短いフレーズを覚えて楽譜にできる。異名同音の存在が理解できる。M.mの音程が歌える、聴ける。		
5回目	簡単な楽譜を見て音を想像できる。		
6回目	確認テスト		
7回目	4分休符、8分休符をビートの中で感じられる。		
8回目	4分休符、8分休符をビートの中で感じられる。		
9回目	順次進行でC～Gまでの音を聴き分け記譜できる。		
10回目	順次進行でC～Gまでの音を聴き分け記譜できる。		
11回目	16ビート上で正確に叩ける。		
12回目	16ビート上で正確に叩ける。		
13回目	メジャーコード、マイナーコードを歌える、聴き取れる。		
14回目	テスト対策週		
15回目	テスト		
準備学習 時間外学習			
評価方法	試験80%、出席・授業態度20%	評価方法はGPA制度となります100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ			
【使用教科書・教材・参考書】 教科書、iPad、授業プリント			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	イヤートレーニング (Ear Training)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	西村 守
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	4	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	木4.5
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 作曲に必要なリズム音程の聞き取りを習得する。 音を聞き分けたり、音程感やリズム感を養うものとして、 身の回りの音から創造力を習得する。 ※実務者経験：串田アキラ、宮内タカユキのサポートギタリストを務める。グレン・ソーベル(インペリテリ、トニー・マカバイン)等と共に師の教則DVDのレコーディング、LIVEシューティングに参加。楽譜メーカーのモニター・デモンストレーターとしても活躍。 【到達目標】 音を聞き取り、楽譜を正確に書ける。							

授業計画・内容			
1回目	マイナースケールを感じて歌うことができる。		
2回目	コードの聴き分けができる。		
3回目	臨時記号が入ったメロディーを聴いて記譜できる。		
4回目	タイが入ったメロディーを聴いて記譜できる。		
5回目	テスト対策(まとめ)		
6回目	確認テスト		
7回目	Fclefの音を聴き記譜できる。		
8回目	Fclefの音を聴き記譜できる。		
9回目	リズムの入ったメロディーを聴いて記譜できる。		
10回目	リズムの入ったメロディーを聴いて記譜できる。		
11回目	2声のメロディーを聴き分けることができる。		
12回目	2声のメロディーを聴き分けることができる。		
13回目	テスト対策(まとめ)		
14回目	テスト		
15回目	テスト返却 復習		
準備学習 時間外学習			
評価方法	試験80%、出席・授業態度20%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ			
【使用教科書・教材・参考書】 教科書、iPad、授業プリント			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	音楽史 (music history)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	水沼 慎一郎
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	2	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	水曜2,3限
【授業の学習内容】 実際の楽曲を通し、様々な音楽の歴史を深く学んでいく。 ※作曲家・ピアニスト 新潟大学卒業。スコラ・カントルム（フランス・パリ）卒業。作曲を清水研作、ナルシス・ボネ、パトリス・ショルティエノの各氏に師事。							
【到達目標】 日本と世界の音楽史を学び比較し、これからの音楽を考えていく力を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	ポピュラー音楽を中心とした歴史背景の説明
2回目	日本の音楽と世界の歴史的背景
3回目	西洋音楽史①：古代の音楽
4回目	西洋音楽史②：中世の音楽
5回目	西洋音楽史③：近代の音楽
6回目	西洋音楽史④：現代の音楽
7回目	西洋音楽史⑤：ブルースからジャズ
8回目	西洋音楽史⑥：ポップス
9回目	日本音楽史①：ポピュラー全盛期
10回目	日本音楽史②：民謡
11回目	日本音楽史③：雅楽
12回目	日本と東洋・欧米の音楽的関係：俯瞰分析
13回目	テスト範囲総括
14回目	筆記テスト
15回目	テスト返却 総括
準備学習時間 外学習	
評価方法	1：定期試験10％ 2：レポート10％ 3：出席率60％ 4：授業態度20％
受講生への メッセージ	音楽史の硬いイメージを取り払い、今日の音楽との関わりを丁寧に伝えるよう心がけます。年号を暗記するなどの従来の方法だけでなく、実際の曲を通し、音楽の聞き方を一緒に広く変えていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：「Western Music」 Claude V. Palisca他 副読本：「音楽中辞典」池辺晋一郎 等 準備物：メモ、筆記用具等	

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	音楽史 (music history)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	水沼 慎一郎
学科	音楽テクノロジー科	授業形態	講義	総時間 (単位)	4	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	水曜4.5限

【授業の学習内容】							
海外を中心にポピュラーミュージックの歴史認識を習得する。 ※作曲家・ピアニスト 新潟大学卒業。スコラ・カントルム（フランス・パリ）卒業。作曲を清水研作、ナルシス・ボネ、パトリス・ショルティエノの各氏に師事。							
【到達目標】							
世界的なスタンダードとされる音楽ジャンル、ミュージシャンについての知識を習得し、国内はもとより海外でも通用する知識の習得。また、日本の音楽ビジネスの現状を世界のルーツを研究することで、より深い認識を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。海外の音楽シーンの現状を把握する
2回目	楽器、機材の遍歴と音楽ジャンルの関係性を知る
3回目	日本の音楽ビジネスの現状をメディアの生産量の動向から探る。
4回目	日本の音楽ビジネスの現状をメディアの生産量の動向から探る。
5回目	50年代 アメリカ ロックンロールの誕生①ブラックミュージックの状況
6回目	50年代 アメリカ ロックンロールの誕生②楽器生産の動向
7回目	60年代 モータウン ブラックミュージックの革命と公民権運動
8回目	60年代 サイケデリックミュージック ドラッグカルチャーと大型ロックフェス
9回目	70年代 ハードロック、グラムロック 表現手法の多様化
10回目	70年代 ファンクミュージック、ディスコブーム
11回目	70年代 パンクロック 既存の音楽の解体
12回目	80年代 HIPHOPカルチャー MTV登場によるメディア革命
13回目	海外の音楽 エンターテインメントについて テクノロジーや最先端のパフォーマンスを探る
14回目	日本の音楽シーンを振り返る ミリオンヒットについて
15回目	筆記テスト 総括
準備学習 時間外学習	
評価方法	1: 定期試験10% 2: レポート10% 3: 出席率60% 4: 授業態度20%
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書：音楽史（洋楽編iPad） 配布資料他	

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	ミュージックテクノロジーⅠ		必修 選択	必修	年次	1	担当教員	斉藤修平
学科	音楽テクノロジー科		授業 形態	実習	総時間		開講区分	前期
コース	全コース				(単位)	1	曜日・時限	木曜5限
【授業の学習内容】								
簡単なボーカルのエディットの技術ボーカルミックスの技術を得る。 ＊実務経験：作曲家としてボーカルのボーカルディレクション及びピッチ補正を行なっている。								
【到達目標】								
メロダインを使ってピッチ補正する技術またボーカルに対するEQ、コンプなどを使用する技術を得る。								
授業計画・内容								
1回目	Melodyneについて							
2回目	Melodyneの使い方							
3回目	Melodyneを使ったピッチ補正1							
4回目	Melodyneを使ったピッチ補正2							
5回目	Melodyneを使ったピッチ補正3							
6回目	Melodyneの作業速度を上げる1 (使用するボーカルの変更)							
7回目	Melodyneの作業速度を上げる2							
8回目	EQ、コンプレッサーについて							
9回目	空間系エフェクトについて							
10回目	ボーカルミックスについて							
11回目	ミックス後のMelodyneの使用1							
12回目	ミックス後のMelodyneの使用方法2							
13回目	ミックス後のMelodyneの使用方法3							
14回目	発表							
15回目	発表							
準備学習 時間外学習	Melodyneの操作に慣れる。							
評価方法	授業内評価	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格		制作物の提出20%、テスト80%にて評価します。				
受講生への メッセージ	Melodyneおそらく使用したことのないプラグインかと思いますが現在一番使われているボーカルエディットプラグインです。慣れない作業になるかとは思いますが楽曲制作する上で必ず役に立つツールになりますので意欲的に取り組みましょう。							
【使用教科書・教材・参考書】								
なし								

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	ミュージックテクノロジーⅠ			必修 選択	必修	年次	1	担当教員	斉藤修平
学科	音楽テクノロジー科			授業 形態	実習	総時間		開講区分	前期
コース	全コース					(単位)	1	曜日・時限	木曜6限
【授業の学習内容】									
DTMを使い簡単な音楽制作のスキルを習得する。 ＊実務経験：作家として作家事務所に所属し、アーティストへの楽曲提供をしている。									
【到達目標】									
簡単な編曲、作曲、作詞などを1人でできる技術を習得する。									
授業計画・内容									
1回目	パソコンの使い方、設備の使い方を理解する								
2回目	DTMの簡単な使い方を学ぶ								
3回目	音楽ジャンルについて								
4回目	ディスコについて								
5回目	ディスコ：ドラムのサウンドの選び方								
6回目	ディスコ：ドラムのフレーズを制作、アウトライン								
7回目	ディスコ：コードを制作								
8回目	ディスコ：シンセサイザーについて学ぶ								
9回目	ディスコ：シンセサイザーのフレーズを制作する								
10回目	簡単なメロディーを制作する								
11回目	簡単な歌詞を制作する								
12回目	簡単なミックス、マスタリング技術を習得する								
13回目	ビートメイキングに関するテスト								
14回目	発表								
15回目	発表								
準備学習 時間外学習	自分が使用するDTMの簡単な使い方。								
評価方法	授業内評価		評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格		制作物の提出20%、テスト80%にて評価します。				
受講生への メッセージ	レベルの授業なので簡単なDTMの使い方などでもぜひ質問をして理解できない部分がない様に努めてください。また制作時間が長いですが集中して授業に参加してください。また授業で出てくる音楽ジャンルに興味を持ち様々なジャンルに興味を持ってください。								
【使用教科書・教材・参考書】									
なし									

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	インストルメンツ (instruments)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	野崎 貴潤
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	2	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	土曜4.5
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) Logic, GarageBandを使い基本的なDTMの知識、扱い方を学び、打ち込みの技術を身につける。 〈講師プロフィール〉 日本大学芸術学部音楽学科で作曲を学ぶ。作編曲からRe-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログ双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、SOON、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 DTMの基本的な操作方法を身につけ、自身の曲のデモバージョンを打ち込めるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	授業内容説明、1 学年の復習		
2回目	色々な楽曲の分析①コード進行、メロディを理解出来る		
3回目	色々な楽曲の分析②コード進行、メロディを理解出来る		
4回目	色々な楽曲の分析③アレンジが出来る		
5回目	色々な楽曲の分析④アレンジが出来る		
6回目	色々な楽曲の分析⑤アレンジが出来る		
7回目	色々な楽曲の分析⑥歌詞を理解出来る		
8回目	色々な楽曲の分析⑦歌詞を理解出来る		
9回目	楽曲の制作①Logicを使用できる		
10回目	楽曲の制作②Logicを使用できる		
11回目	楽曲の制作③Logicを使用できる		
12回目	楽曲の制作④Logicを使用できる		
13回目	自分たちが作った楽曲の発表、分析		
14回目	前期の授業の復習		
15回目	実技テスト		
準備学習 時間外学習	授業の内容が難しいことが多いため、毎回の復習が必要になります。		
評価方法	1．定期試験（％） 2．小テスト（％） 3．レポート（％） 4．課題成果（％） 5．実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	実技テスト（提示された課題に沿って楽曲制作ができるか）
受講生への メッセージ	最近ではDTMを扱えるミュージシャンが増えてきているため、毎回の授業の中で理解度を高め、しっかりと学習をしてください。		
【使用教科書・教材・参考書】 楽曲の譜面・音源・iPad・鍵盤楽器もしくはギター			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	インストルメンツ (instruments)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	野崎 貴潤
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	2	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	土曜4.5
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) Logic, GarageBandを使い基本的なDTMの知識、扱い方を学び、打ち込みの技術を身につける。 〈講師プロフィール〉 日本大学芸術学部音楽学科で作曲を学ぶ。作編曲からRe-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログ双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、SOON、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 DTMの基本的な操作方法を身につけ、自身の曲のデモバージョンを打ち込めるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	前期の授業の復習		
2回目	Logicを使った楽曲の制作①テーマ、コンセプトを理解する		
3回目	Logicを使った楽曲の制作②コード進行、メロディを理解出来る		
4回目	Logicを使った楽曲の制作③コード進行、メロディを理解出来る		
5回目	Logicを使った楽曲の制作④アレンジが出来る		
6回目	Logicを使った楽曲の制作⑤アレンジが出来る		
7回目	Logicを使った楽曲の制作⑥アレンジが出来る		
8回目	Logicを使った楽曲の制作⑦アレンジ、作詞を分析出来る		
9回目	Logicを使った楽曲の制作⑧アレンジ、作詞を分析出来る		
10回目	Logicを使った楽曲の制作⑨アレンジ、歌録りが出来る		
11回目	Logicを使った楽曲の制作⑩Mixが出来る		
12回目	Logicを使った楽曲の制作⑩マスタリングが出来る		
13回目	Logicを使った楽曲の制作⑪Mix、マスタリングが出来る		
14回目	後期の授業の復習		
15回目	実技テスト		
準備学習 時間外学習	授業の内容が難しいことが多いため、毎回の復習が必要になります。		
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	実技テスト（提示された課題に沿って楽曲制作ができるか）
受講生への メッセージ	最近ではDTMを扱えるミュージシャンが増えてきているため、毎回の授業の中で理解度を高め、しっかりと学習をしてください。		
【使用教科書・教材・参考書】 楽曲の譜面・音源・iPad・鍵盤楽器もしくはギター			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	パフォーマンス	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	山口 晃
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	4	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日・4限
コース	全コース						
【授業の学習内容】							

自分の身体を知るためのストレッチ。
その身体で全ての演技に必要な発声を身につける。
相手役のあるテキストにより、自分のイメージした声・滑舌ができるようになる。

【到達目標】

自分の身体から相手に届く発声を身につける。

授業計画・内容

- 1回目 ストレッチ・発声・シアターゲーム等を正しく理解。そのための講義。
- 2回目 ストレッチ・発声により、現在の自分の実力を知る。息の体操。
- 3回目 ストレッチ・発声後、シアターゲームにより相手に声を届ける。
- 4回目 セリフのテキストを配布し、説明。
- 5回目 セリフのテキストを本読み。
- 6回目 ストレッチ・発声後、本読みでの点・丸の意味を理解。
- 7回目 ストレッチ・発声後、相手役を意識し、相手に声が届くように訓練。
- 8回目 ストレッチ・発声後、演技を意識した発声。
- 9回目 ストレッチ・発声後、立ち稽古。
- 10回目 ストレッチ・発声後、動きと連動した発声。
- 11回目 ストレッチ・発声後、立ち稽古。他の演技者を見ることにより、自分を知ることができる。
- 12回目 テスト。テキストの演技をする。
- 13回目 前期を見返し、後期の課題を見つけることができる。

14回目

15回目

授業の復習、息の体操、外郎売りを覚える

準備学習
時間外学習

評価方法 実技テストによる採点

評価方法はGPA制度となります
100～90点 S
89～80点 A
79～70点 B
69～60点 C
59点以下 F 不合格

受講生への
メッセージ あせらず、確実に。新たな自分を発見し、向上を目指す。

【使用教科書・教材・参考書】

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	パフォーマンス	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	山口 晃
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	4	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日・5.6限
コース 【授業の学習内容】	全コース						

演劇業界で必要とされる人を目指し、自分のキャラクターを発見する。
すべての授業の集大成としての演劇公演をすることで、周りの人との協調性・人間力を養い、必要とされる演技者になる。

【到達目標】

演劇業界で必要とされる俳優になる。

授業計画・内容

- 1回目 シアターゲームにより即興性を養う。サブテキストについて説明、理解できる。
- 2回目 様々なゲームにより演劇的な即興性を養う。
- 3回目 公演台本の配布・説明、それを理解。
- 4回目 キャストオーディションに臨む。
- 5回目 キャスト発表。自分の役での本読み。
- 6回目 より詳しく、シーンを理解するための本読み。
- 7回目 立ち稽古で自分の役割を知る。ミザンスを決める。
- 8回目 立ち稽古により、演出を理解する。
- 9回目 衣装・小道具ありの稽古。
- 10回目 通し稽古をするための小返し稽古。
- 11回目 通し稽古。
- 12回目 本番通りの稽古。観客を意識した演技。
- 13回目 反省により、今後の課題を見つける。

14回目

15回目

本読み、台詞を覚える、イメージトレーニング。

準備学習
時間外学習

評価方法 公演の成果による採点

評価方法はGPA制度となります
100～90点 S
89～80点 A
79～70点 B
69～60点 C
59点以下 F 不合格

受講生への
メッセージ 業界で必要とされる俳優になるため、日々の努力を！！

【使用教科書・教材・参考書】

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	ソングライティング (songwriting)	必修 選択	必修選択	年次	1年	担当教員	野崎 貴潤
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	1	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	水曜1
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 主にメジャーダイアトニックコードについて、またコード進行制作の基礎を習得 〈講師プロフィール〉日本大学芸術学部音楽学科で作曲を学ぶ。作編曲からRe-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログ双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、SOON、ゴスペラズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 ダイアトニックコードの理解とコードトーンを理解 ダイアトニックコードを使用したコード進行を制作できるようになる							

授業計画・内容			
1回目	Key of Cのメジャーダイアトニックコード（3和音）とディグリーネームについてを習得		
2回目	Key of Cのメジャーダイアトニックコードを使ったコード進行と定番のコード進行を習得		
3回目	Key of Cのメジャーダイアトニックコード、コードトーンを使ったメロディーについてを習得		
4回目	Key of G・Dのメジャーダイアトニックコード（3和音）とディグリーネームについてを習得		
5回目	Key of A・E・Fのメジャーダイアトニックコード（3和音）とディグリーネームについてを習得		
6回目	メジャーダイアトニックコードについての復習		
7回目	中間テスト		
8回目	Key of Cのメジャーダイアトニックコード4和音についと、コード進行作成演習、ディグリーネームを使った演習		
9回目	#系Keyのメジャーダイアトニックコード4和音について、コード進行作成演習、キーチェンジ（移調）を習得		
10回目	b系Keyのメジャーダイアトニックコード4和音について、コード進行作成演習、キーチェンジ（移調）を習得		
11回目	sus4コードの紹介と使用法を習得		
12回目	メジャーダイアトニックコードを使ったコード進行制作演習と期末試験の課題発表し制作を行う		
13回目	メジャーダイアトニックコードを使ったコード進行制作演習と期末試験の課題発表し制作を行う		
14回目	メジャーダイアトニックコードを使ったコード進行制作演習と期末試験の課題発表し制作を行う		
15回目	実技テスト		
準備学習 時間外学習	授業内で紹介されたアーティストの楽曲を聴いておきましょう。 授業で習った事を実践してみましょう。		
評価方法	1．定期試験（％） 2．小テスト（％） 3．レポート（％） 4．課題成果（％） 5．実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	実技テスト（提示された課題に沿って、楽曲制作ができるか）
受講生への メッセージ	●1曲でも多く曲を書く事が大切です。不恰好でも良いので沢山曲を作り、それを録音（保存）しておくようにしましょう。 ●ヒット曲や有名な曲を常に聴くように心がけてください。 ●各自が手に取る楽器や歌のスキルも上げるようにしておきましょう。そのことが作曲をする上で重要になってきます。 ●DAW（ProTools、Logic etc）の扱い方も勉強しておきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 楽曲の譜面・音源・iPad・鍵盤楽器もしくはギター			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	ソングライティング (songwriting)	必修 選択	必修選択	年次	1年	担当教員	野崎 貴潤
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	1	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	水曜1
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 主にメジャーダイアトニックコードの復習にあわせサブドミナントマイナーコードについて、またコード進行制作とメロディーのアナライズを行う事により、楽曲制作の基礎を習得。Bluesなど特殊なコード進行についても学び、音楽の視野を広げる。 〈講師プロフィール〉日本大学芸術学部音楽学科で作曲を学ぶ。作編曲からRe-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログ双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、SOON、ゴスペラズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 ダイアトニックコードとノンダイアトニックコードを理解しコード進行制作ができる 楽曲のアナライズ（コード進行・メロディーライン）が行えるようになる							

授業計画・内容			
1回目	メジャーダイアトニックコードとポピュラーミュージックでよく出るサブドミナントマイナーコードを習得		
2回目	メジャーダイアトニックコードとポピュラーミュージックでよく出るサブドミナントマイナーコードを習得		
3回目	サブドミナントマイナーの入るコード進行でのメロディーの制作を行う		
4回目	サブドミナントマイナーの入るコード進行でのメロディーの制作を行う		
5回目	IIm7-V7進行を習得		
6回目	IIm7(b5)-V7(b9)進行を習得		
7回目	中間テスト		
8回目	Blues進行を習得		
9回目	Blues進行とJazz Bluesを習得		
10回目	IIm7-V7を使用したコード進行についてを習得		
11回目	IIm7-V7を使用したコード進行について実践できる		
12回目	コード進行とメロディーラインの関係について（アナライズ・分析演習）①		
13回目	コード進行とメロディーラインの関係について（アナライズ・分析演習）②		
14回目	コード進行とメロディーラインの関係について（アナライズ・分析演習）③		
15回目	期末テスト		
準備学習 時間外学習	授業内で紹介されたアーティストの楽曲を聴いておきましょう。 授業で習った事を実践してみましょう。		
評価方法	1. 定期試験（％） 2. 小テスト（％） 3. レポート（％） 4. 課題成果（％） 5. 実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	実技テスト（提示された課題に沿って、楽曲制作ができるか）
受講生への メッセージ	●1曲でも多く曲を書く事が大切です。不恰好でも良いので沢山曲を作り、それを録音（保存）しておくようにしましょう。 ●ヒット曲や有名な曲を常に聴くように心がけてください。 ●各自が手に取る楽器や歌のスキルも上げるようにしておきましょう。そのことが作曲をする上で重要になってきます。 ●DAW（ProTools、Logic etc)の扱い方も勉強しておきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 楽曲の譜面・音源・iPad・鍵盤楽器もしくはギター			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	オーディオエンジニアリングⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	吉川 豊
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	2	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	月曜3,4限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) レコーディングを行って行く上での基礎を実際にその知識が必要となる場面を交え、難しい取説や回路図など使わずにスキルを習得する。 実務者経験：株式会社ヒットキット代表。SPITZ、桜井和寿、GUKU-MC、清水翔太、高畑充希、コトリング、小柳ゆき、どぶろっく、LUV K RAFT、天童よしみ等、ジャンルを問わず数々のレコーディングに参加。							
【到達目標】 コンソール、protoolsを使い生楽器の録音ができるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	スタジオシステムを説明出来る		
2回目	実際に音を出し、どのような信号の流れで録音されているのかを説明出来る		
3回目	ケーブルの種類とマイクの種類を説明出来る		
4回目	コンソール 信号の流れを説明出来る		
5回目	マルチマイク録音時の注意点とセッティングを説明出来る		
6回目	コンソール S S L の特徴を説明出来る		
7回目	コンソール 各パーツの役割を説明出来る		
8回目	マイキングをを説明出来る		
9回目	録音レベルの取り方 H A の詳細な使い方とフィルターの使い方を説明出来る		
10回目	コンプレッサーとリバーブの使い方を説明出来る		
11回目	protoolsテクニックの習得		
12回目	protoolsテクニックの演習を行う（効率のよい操作を習得）		
13回目	protoolsテクニックの演習を行う(プラグインの使い方を習得)		
14回目	protoolsテクニックの演習を行う(auto tuneを習得)		
15回目	習熟度テストを行う		
準備学習 時間外学習	ヒットチャートbest10に入ってる曲は常に聴いておいてください。 時間がある時はひたすらprotoolsで E D I T の練習をしてください。		
評価方法	1．定期試験（％） 2．小テスト（％） 3．レポート（％） 4．課題成果（％） 5．実地試験（％）	評価方法はG P A 制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	実施試験（100％）
受講生への メッセージ	好きな事を仕事にするのには、難しい事を沢山覚えないとならない。 難しい事を遊び感覚で楽しんで、できるように工夫する事が使い方の難しい機材を覚えていく上でのコツ。 自分の好きなCDを靶に最低3枚は必ず入れて持ち歩いてください。 家で聞き慣れたCDをスタジオの白いモニター環境で空いてる時間は常に聴いてください		
【使用教科書・教材・参考書】 C D			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	オーディオエンジニアリングⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	吉川 豊
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	2	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	月曜3,4限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) レコーディングを行って行く上での基礎を実際にその知識が必要となる場面を交え、難しい取説や回路図など使わずにスキルを習得する。 実務者経験：株式会社ヒットキット代表。SPITZ、桜井和寿、GUKU-MC、清水翔太、高畑充希、コトリング、小柳ゆき、どぶろっく、LUV K RAFT、天童よしみ等、ジャンルを問わず数々のレコーディングに参加。							
【到達目標】 コンソール、protoolsを使い生楽器の録音ができるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	復習 スタジオシステムを操作出来る		
2回目	protoolsテクニックの演習を行う		
3回目	protoolsテクニックの演習を行う		
4回目	protoolsテクニックの演習を行う		
5回目	protoolsテクニックの演習を行う		
6回目	コンソール S S Lを使った演習を行う		
7回目	コンソール S S Lを使った演習を行う		
8回目	コンソール S S Lを使った演習を行う		
9回目	コンソール S S Lを使った演習を行う		
10回目	レコーディング 素材や人材を用いて演習を行う		
11回目	レコーディング 素材や人材を用いて演習を行う		
12回目	レコーディング 素材や人材を用いて演習を行う		
13回目	レコーディング 素材や人材を用いて演習を行う		
14回目	レコーディング 素材や人材を用いて演習を行う		
15回目	習熟度テストを行う		
準備学習 時間外学習	ヒットチャートbest10に入ってる曲は常に聴いておいてください。 時間がある時はひたすらprotoolsでE D I Tの練習をしてください。		
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はG P A制度となります 1 0 0～9 0点 S 8 9～8 0点 A 7 9～7 0点 B 6 9～6 0点 C 5 9点以下 F 不合格	実施試験 (100%)
受講生への メッセージ	好きな事を仕事にするのには、難しい事を沢山覚えなければならない。 難しい事を遊び感覚で楽しんで、できるように工夫する事が使い方の難しい機材を覚えていく上でのコツ。 自分の好きなCDを靶に最低3枚は必ず入れて持ち歩いてください。 家で聞き慣れたCDをスタジオの白いモニター環境で空いてる時間は常に聴いてください		
【使用教科書・教材・参考書】			
C D			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	ステージ/ライティングエンジニアリ ング	必修 選択	必修選択	年次	1年	担当教員	清水 正典
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	2	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	木曜5,6限

【授業の学習内容】
 照明スタッフとして必要な基礎的な知識と技術を習得します。
 ※デライト株式会社（照明会社）所属。約30年照明担当として従事している。

【到達目標】
 照明の仕事に必要な理論や照明デザインをするための基礎的な知識を学び、演習やイベントでの実践に活かせるようになる。

授業計画・内容	
1回目	授業内容の説明、機材説明 舞台機構
2回目	機材説明、ケーブルコネクタの説明 巻き方 色について LHQでの色の混ざり方を学ぶ
3回目	仕込み演習Ⅰ 簡単な仕込み図の見方 書き方 調光卓の操作について学ぶ
4回目	仕込み図の作成 調光卓/PINSPOTの操作について学ぶ
5回目	照明仕込み 照明シュートについて 調光卓の操作について学ぶ
6回目	照明仕込み 照明シュートについて 調光卓の操作について学ぶ
7回目	サオによる照明シュートについて学ぶ
8回目	学園祭に向けての準備。仕込み図、機材選定を行う。
9回目	学園祭での役割と反省点
10回目	ホール演習準備 役割分担
11回目	ホール演習準備 仕込み図、機材リストの確認
12回目	ホール演習 港文化小劇場 ホール説明 照明設備説明 前明かりのシュート
13回目	仕込み演習 劇場での仕込み時の動きについて学ぶ
14回目	仕込み演習 劇場での仕込み時の動きについて学ぶ
15回目	ミュージカルの舞台製作の振り返り。
準備学習 時間外学習	
評価方法	実技、授業態度などを評価
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	ステージ/ライティングエンジニアリング	必修 選択	必修選択	年次	1年	担当教員	清水 正典
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	2	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	木曜5,6限

【授業の学習内容】
 照明スタッフとして必要な基礎的な知識と技術を習得します。
 ※デライト株式会社（照明会社）所属。約30年照明担当として従事している。

【到達目標】
 照明の仕事に必要な理論や照明デザインをするための基礎的な知識を学び、演習やイベントでの実践に活かせるようになる。

授業計画・内容	
1回目	前期の復習
2回目	仕込み図の作成に伴い必要な要素を学ぶ。電源、灯体、回線図など
3回目	仕込み図を作成する。
4回目	仕込み図を作成する。
5回目	仕込み図を基に、機材を仕込む
6回目	仕込み図を基に、機材を仕込む
7回目	仕込み図を基に、機材を仕込む
8回目	ホール演習に向けての準備。役割分担
9回目	ホール演習に向けての準備。仕込み図作成。機材の選定、確認をチームに分けて行う。
10回目	ホール演習に向けての準備。仕込み図作成。機材の選定、確認をチームに分けて行う。
11回目	ホール演習 瑞穂文化小劇場 劇場でのオペレートを行う。
12回目	ホール演習 振り返り
13回目	卒業進級展に向けて役割分担。
14回目	卒業進級展に向けて仕込み図作成。機材の選定、確認をチームに分けて行う。
15回目	卒業進級展に向けて仕込み図作成。機材の選定、確認をチームに分けて行う。
準備学習 時間外学習	
評価方法	実技、授業態度などを評価
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

2026年度 シラバス

科目名 (英)	パフォーマンスプロジェクト (Performance Projects)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	渡辺 智哉
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	2	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	火曜1.2
【授業の学習内容】 （※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する） ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートと課題曲をアンサンブルし、実際のセッションの中での立ち位置を理解し、演奏方法やパフォーマンス、インプロビゼーションの技術を習得する。課題曲を2週ごとに1曲出し、1週目はその曲のアナライズをし、2週目は実際にアンサンブルを行う。 ※実務者経験：ルネ音楽教室代表。自身のバンドやサポート・セッションギタリスト、インストラクターとして、名古屋を中心に15年以上活動が続けている。							
【到達目標】 アナライズまでには課題曲をしっかり聴き、できる限り自分のパートを弾けるようにしておく。アナライズでは、聴き取ってきたフレーズやリズムが合っているかの確認と訂正、音色の選択、ソロがある場合はインプロビゼーションができるようにする。アンサンブルでは実際にアナライズした内容を実践し、バンド内でのグルーヴ感や、演奏力、アイコンタクトやキュー出し、パフォーマンス力を身に付ける。							
授業計画・内容							
1回目	課題曲 1 アナライズ 楽曲の説明ができる						
2回目	課題曲 1 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
3回目	課題曲 2 アナライズ 楽曲の説明ができる						
4回目	課題曲 2 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
5回目	課題曲 3 アナライズ 楽曲の説明ができる						
6回目	課題曲 3 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
7回目	課題曲 4 アナライズ 楽曲の説明ができる						
8回目	課題曲 4 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
9回目	課題曲 5 アナライズ 楽曲の説明ができる						
10回目	課題曲 5 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
11回目	課題曲 6 アナライズ 楽曲の説明ができる						
12回目	課題曲 6 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
13回目	課題曲 7 アナライズ 楽曲の説明ができる						
14回目	課題曲 7 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる						
15回目	アンサンブル総復習						
準備学習 時間外学習							
評価方法	授業態度 10 % 出席率 10 % テスト 80 %	出 実技	評価方法は GPA 制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格				
受講生への メッセージ	実際のアンサンブルを通して、演奏面だけでなく、パフォーマンス力も付けてしっかりステージの上で輝けるようなミュージシャンを目指しましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】 その都度必要な資料は渡しますが、特に用意するものではありません。							

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	パフォーマンスプロジェクト (Performance Projects)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	渡辺 智哉
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	2	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	火曜1.2

【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートと課題曲をアンサンブルし、実際のセッションの中での立ち位置を理解し、演奏方法やパフォーマンス、インプロビゼーションの技術を習得する。課題曲を2週ごとに1曲出し、1週目はその曲のアナライズをし、2週目は実際にアンサンブルを行う。

※実務者経験：ルネ音楽教室代表。自身のバンドやサポート・セッションギタリスト、インストラクターとして、名古屋を中心に15年以上活動を続けている。

【到達目標】

アナライズまでには課題曲をしっかり聴き、できる限り自分のパートを弾けるようにしておく。アナライズでは、聴き取ってきたフレーズやリズムが合っているかの確認と訂正、音色の選択、ソロがある場合はインプロビゼーションができるようにする。アンサンブルでは実際にアナライズした内容を実践し、バンド内でのグルーヴ感や、演奏力、アイコンタクトやキュー出し、パフォーマンス力を身に付ける。

授業計画・内容

1回目	課題曲1 アナライズ 楽曲の説明ができる
2回目	課題曲1 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる
3回目	課題曲2 アナライズ 楽曲の説明ができる
4回目	課題曲2 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる
5回目	課題曲3 アナライズ 楽曲の説明ができる
6回目	課題曲3 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる
7回目	課題曲4 アナライズ 楽曲の説明ができる
8回目	課題曲4 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる
9回目	課題曲5 アナライズ 楽曲の説明ができる
10回目	課題曲5 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる
11回目	課題曲6 アナライズ 楽曲の説明ができる
12回目	課題曲6 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる
13回目	課題曲7 アナライズ 楽曲の説明ができる
14回目	課題曲7 アンサンブル アンサンブルの中で演奏とパフォーマンスができる
15回目	アンサンブル総復習

準備学習 時間外学習	
---------------	--

評価方法	授業態度10% 出席率10% テスト80%	出 実技	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
------	-----------------------------	---------	---

受講生への メッセージ	実際のアンサンブルを通して、演奏面だけでなく、パフォーマンス力も付けてしっかりステージの上で輝けるようなミュージシャンを目指しましょう。
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

その都度必要な資料は渡しますが、特に用意するものではありません。

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	舞台制作 (music production)	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	佐藤 聖也
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	2	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	水1・2限

【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 イベントの企画・制作業務において、マルチな知識が必要とされる役割となります。概念とは別に実行に移すための
 予備知識(工具・部材の取り扱い、P C においてのアプローチ知識、S N S 知識・舞台基礎)を中心に実行。
 ZeppライブエンターテイメントにてZeppNagoya運営アシスタントポジションにて全国Zepp系列の運営チーフにて在籍。
 また芸能プロダクションにも勤め、現場マネジメントとしても活動。

【到達目標】
 各知識習得後、イベントの実行・制作として行える引き出しを増やすきっかけにする。
 また自分の特技とするものを作るきっかけにする。

授業計画・内容			
1回目	1限 コミュニケーションスキルアップ/文章構成・マーケティング（JFN学生ラジオCMコンテスト）①		
2回目	文章構成・マーケティング（JFN学生ラジオCMコンテスト）②/ミュージカル制作について		
3回目	尺貫法・舞台大道具について①/プロモーター会社運営について		
4回目	ドラムの組み方/電源知識①/チラシコーディネート		
5回目	道具の種類・使い方について		
6回目	チラシ・ポスター制作基礎知識①/カラーコーディネート知識		
7回目	音源データ作成知識（Garageband etc）①		
8回目	台本の読み取り方・メモの取り方・活用方法		
9回目	iMovie作成/SNSプロモーション戦略について①（Twitter・Youtubeなど）		
10回目	iMovie作成/SNSプロモーション戦略について②補足：データフォーマットに関して		
11回目	機材端子/電源について②		
12回目	楽器基礎知識について/電源について②		
13回目	舞台制作①/道具についておさらい		
14回目	舞台制作②/道具についておさらい		
15回目	照明予備知識について①		
準備学習時間 外学習	常に身の回りにあるライブやデザインの構図や構成を考える癖をつけ、授業時の発想に活かすことができるようにする。		
評価方法	評価はGPA制度 1. 定期試験（40%） 2. レポート（20%） 3. レポート（20%） 4. 課題成果（70%） 試験（10%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59～0点 F 不合格	
受講生へのメッセージ	答えが1つとする用語があれば、答えが複数という発想に繋がるものがあります。たくさんの引き出しを身につけ、臨機応変に対応できる人材を目指してください。		
【使用教科書・教材・参考書】			
ipad・舞台大道具・楽器・iMac etc			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	舞台制作 (music production)	必修選択	必須	年次	1	担当教員	佐藤 聖也
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	2	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	木曜日・1～2限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) イベントの企画・制作業務において、マルチな知識が必要とされる役割となります。概念とは別に実行に移すための予備知識(工具・部材の取り扱い、PCにおいてのアプローチ知識、SNS知識・舞台基礎)を中心に実行。							
【到達目標】 各知識習得後、イベントの実行・制作として行える引き出しを増やすきっかけにする。また自分の特技とするものを作るきっかけにする。							

授業計画・内容			
1回目	タイムスケジュール・進行表作成①		
2回目	タイムスケジュール・進行表作成②		
3回目	尺貫法・舞台大道具について②		
4回目	HP制作技術講座①		
5回目	HP制作技術講座②		
6回目	チラシ・ポスター制作基礎知識②		
7回目	音源データ作成知識（Garageband etc）③		
8回目	音源データ作成知識（Garageband etc）④		
9回目	iMovie作成/SNSプロモーション戦略について③（Twitter・Youtubeなど）		
10回目	iMovie作成/SNSプロモーション戦略について④補足：データフォーマットに関して復習		
11回目	大道具舞台組み実習①		
12回目	大道具舞台組み実習②		
13回目	野外設営知識①		
14回目	舞台制作②/道具についておさらい		
15回目	照明予備知識について②		
準備学習 時間外学習	課題提出あり		
評価方法	1．定期試験（％） 2．小テスト（20％） 3．レポート（％） 4．課題成果（70％） 5．実地試験（10％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ			
【使用教科書・教材・参考書】			
ipad・舞台大道具・楽器・iMac etc			

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	インテンシブパフォーマンス	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	西野 恭平
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	2	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	水曜5.6
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドについても習得する。 ＊実務経験(Dance & Vocal): WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」BEST 8、その他、優勝8回、準優勝5回の経歴有り2019年ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催、2019年9月NY Apollo Theater Amateur Night Audition 合格、2018/9/10 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース、名古屋市民会館 EX SHOW2017出演(2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&Dance講師を行なっている。) 【到達目標】 ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上することができる。							

授業計画・内容	
1回目	2年次の個人目標設定を行い意識を高めることができる
2回目	腹式呼吸が自分で理解し出来るようになる
3回目	ステージでのマイクテクニックのレパートリーを増やしパフォーマンスができるようになる
4回目	パフォーマンスに緩急を付けることができるようになる
5回目	簡単な動きをつけながら、歌唱パフォーマンスを行うことができる
6回目	1年次よりレベルをあげたステップをつけながら、歌唱パフォーマンスを行うことができる
7回目	パフォーマンスに緩急を付けることができるようになる
8回目	振り付けに合わせて、どんな歌唱パフォーマンスがあるか検証し、歌唱パフォーマンスができるようになる
9回目	自分で振り付け、ステージパフォーマンスを考えることができる
10回目	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを行うことができる
11回目	事前に選択した曲1コーラスヴォーカルパフォーマンスができるようになる
12回目	歌唱パフォーマンスのクオリティを高めることができるようになる
13回目	自分の振り付け、歌唱パフォーマンスを見直し、クオリティの高いパフォーマンスができるようになる
14回目	事前に選択した曲を1コーラスヴォーカルパフォーマンスをし、課題を見つけることができる
15回目	テストを実施し自分のスキルを知ることができる
準備学習 時間外学習	※授業の注意事項 ・パフォーマンスを行いたい曲を事前に決めて歌詞を暗記して来ること。 ・歌詞をノートに書いて持って来ること。
評価方法	1. 出席・授業態度 (40%) 2. 実地試験 (60%)
受講生への メッセージ	歌を上手くなるには時間が掛かります。また、パフォーマンスをする事で思い通りに歌うことが出来ないことがあります。それらを改善し、効率的なパフォーマンススキルの飛躍をお手伝いさせていただきます。一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad(カラオケ音源) ワイヤレスマイク ダミーマイク	

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	インテンシブパフォーマンス	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	西野 恭平
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	2	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	水曜5.6
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドについても習得する。 ＊実務経験(Dance & Vocal): WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」BEST 8、その他、優勝8回、準優勝5回の経歴有り2019年ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催、2019年9月NY Apollo Theater Amateur Night Audition 合格、2018/9/10 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース、名古屋市民会館 EX SHOW2017出演(2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&Dance講師を行なっている。) 【到達目標】 ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上することができる。							

授業計画・内容	
1回目	卒業まで、卒業後の個人目標設定を行い意識を高めることができる
2回目	腹式呼吸が出来るようになる
3回目	ステージでのマイクテクニックを知ることができる
4回目	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる1(アイソレーション、ヒット、ウォークアウト)
5回目	簡単な動きをつけながら、歌唱パフォーマンスを行うことができる
6回目	簡単なステップをつけながら、歌唱パフォーマンスを行うことができる
7回目	昨今のミュージックシーンに、多大な影響を与えているダンスジャンルPOPPINGの基礎を身につけることができる
8回目	アイソレーション、ポップ、サイドスライドを身につけ、歌唱パフォーマンスが出来るようになる
9回目	ストレッチ、振り付け8X4を身につけ、歌唱パフォーマンスが出来るようになる
10回目	ストレッチ、セルフプロデュースパフォーマンスを作り上げるヴォーカルが引き立つ演出を中心に制作することができる
11回目	ストレッチ、セルフプロデュースパフォーマンスを作り上げスキルアップをすることができる
12回目	服装、角度、ポーズ、パフォーマンスを様々なバリエーションでパフォーマンスが出来るようになる
13回目	改善点を見つけ、どのようにすると良くなるか反復練習し、クオリティの高い歌唱パフォーマンスが出来るようになる
14回目	事前に選択した曲を1コーラスヴォーカルパフォーマンスをし、課題を見つけることができる
15回目	テストを実施し自分のスキルを知ることができる
準備学習 時間外学習	※授業の注意事項 ・パフォーマンスを行いたい曲を事前に決めて歌詞を暗記して来ること。 ・歌詞をノートに書いて持って来ること。
評価方法	1. 出席・授業態度 (40%) 2. 実地試験 (60%)
受講生への メッセージ	歌を上手くなるには時間が掛かります。また、パフォーマンスをする事で思い通りに歌うことが出来ないことがあります。それらを改善し、効率的なパフォーマンススキルの飛躍をお手伝いさせていただきます。一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad(カラオケ音源) ワイヤレスマイク ダミーマイク	

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	プロジェクトワーク (project work)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	井上 直																																																																																																																																																								
学科	音楽テクノロジー	授業 形態	講義 または 演習	総時間 (単位)	5	開講区分	前期																																																																																																																																																								
コース	全コース					曜日・時限	月曜3～7限																																																																																																																																																								
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) コンセプトワークからコンポーズ・アレンジ、ブックイング・レコーディング・ディレクション・マスタリング・パッケージ・納品・コンテンツ作成まで各々が現場に立ち、プロデュースを行う。本授業を通し、グループワークと柔軟性を習得する。近年のクリエイターの活動傾向を鑑みて、楽曲・志向・活動等を具体的且つ視覚的にデザインし、“アピール”するというマインドを習得する。 ※実務者経験：株式会社ポニーキャニオン所属 主業務はマニピュレーター&キーボード、作曲、編曲をはじめ、レコーディングからディレクション、マスタリング、オーサリングまで担当																																																																																																																																																															
【到達目標】 ◆コンセプト・プロット・企画書完成、作曲・アレンジに取りかかり、コンテンツ完成までの50%以上が完了。 ◆流行のコンテンツサービスをはじめ、音楽・動画配信の定義と仕組み説明ができるようになる。 ◆著作物を扱うリテラシーを習得する。 ◆本授業通して自身の活動スタイルに合わせたコンテンツを発見する。																																																																																																																																																															
授業計画・内容 <table border="1"> <tr> <td>1回目</td> <td colspan="7">【オリエンテーション】卒業制作のレギュレーションとフローの説明、目標設定発表、グループ決め、スケジュール表を制作する</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td colspan="7">【講義】CDのメリットデメリット、配信のメリットデメリット、また情報を発信できるサイトやツール・SNSの紹介・特色を分析出来る</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td colspan="7">【コンセプトワーク】アルバムを制作するにあたり、コンセプトを明確に表記した企画書の作成が出来る</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td colspan="7">【コンセプトワーク2】企画書、スケジュール表を提出(企画書スケジュールのリテイクあり) 企画の通ったグループから作品制作演習を行う</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う</td> </tr> <tr> <td>6回目</td> <td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※企画書提出×切</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> <td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td> </tr> <tr> <td>8回目</td> <td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td> </tr> <tr> <td>9回目</td> <td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td> </tr> <tr> <td>10回目</td> <td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td> </tr> <tr> <td>11回目</td> <td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td> </tr> <tr> <td>12回目</td> <td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td> </tr> <tr> <td>13回目</td> <td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td> </tr> <tr> <td>14回目</td> <td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック</td> </tr> <tr> <td>15回目</td> <td colspan="7">【OC(質問事項に対しての講義)】スケジュールと制作演習を行う、現地点での制作楽曲のプレゼンが出来る</td> </tr> <tr> <td>準備学習 時間外学習</td> <td colspan="7">授業だけではまかないきれないので、時間外の制作がほとんどになると思います。 たくさん曲を制作することになりますので、自分の表現したいイメージを十分に膨らませておいてください。</td> </tr> <tr> <td>評価方法</td> <td> 1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%) </td> <td> 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格 </td> <td colspan="5"> レポート60%(進捗報告とクオリティチェックで判断) 課題成果40%(クオリティチェック後の次回授業での報告で評価) </td> </tr> <tr> <td>受講生への メッセージ</td> <td colspan="7"> NSMで学んできたこと、経験してきたことの集大成を作り上げる卒業制作プロジェクトです。 音楽的クオリティの追求からアートワーク作成、各々が自身の活動に合うコンテンツ作成までをつくりあげます。 全力を尽くして作品創作に臨みましょう。 </td> </tr> <tr> <td colspan="8"> 【使用教科書・教材・参考書】 プロットを作成するシーンが多いため、必ず専用のノートと筆記用具を持参。 (シャープペンシルや鉛筆など、消すことが可能なステーションナリー推奨) 必要に応じて保存メディア・個人ストレージを用意 </td> </tr> </table>								1回目	【オリエンテーション】卒業制作のレギュレーションとフローの説明、目標設定発表、グループ決め、スケジュール表を制作する							2回目	【講義】CDのメリットデメリット、配信のメリットデメリット、また情報を発信できるサイトやツール・SNSの紹介・特色を分析出来る							3回目	【コンセプトワーク】アルバムを制作するにあたり、コンセプトを明確に表記した企画書の作成が出来る							4回目	【コンセプトワーク2】企画書、スケジュール表を提出(企画書スケジュールのリテイクあり) 企画の通ったグループから作品制作演習を行う							5回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う							6回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※企画書提出×切							7回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							8回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							9回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							10回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							11回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							12回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							13回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							14回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック							15回目	【OC(質問事項に対しての講義)】スケジュールと制作演習を行う、現地点での制作楽曲のプレゼンが出来る							準備学習 時間外学習	授業だけではまかないきれないので、時間外の制作がほとんどになると思います。 たくさん曲を制作することになりますので、自分の表現したいイメージを十分に膨らませておいてください。							評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	レポート60%(進捗報告とクオリティチェックで判断) 課題成果40%(クオリティチェック後の次回授業での報告で評価)					受講生への メッセージ	NSMで学んできたこと、経験してきたことの集大成を作り上げる卒業制作プロジェクトです。 音楽的クオリティの追求からアートワーク作成、各々が自身の活動に合うコンテンツ作成までをつくりあげます。 全力を尽くして作品創作に臨みましょう。							【使用教科書・教材・参考書】 プロットを作成するシーンが多いため、必ず専用のノートと筆記用具を持参。 (シャープペンシルや鉛筆など、消すことが可能なステーションナリー推奨) 必要に応じて保存メディア・個人ストレージを用意							
1回目	【オリエンテーション】卒業制作のレギュレーションとフローの説明、目標設定発表、グループ決め、スケジュール表を制作する																																																																																																																																																														
2回目	【講義】CDのメリットデメリット、配信のメリットデメリット、また情報を発信できるサイトやツール・SNSの紹介・特色を分析出来る																																																																																																																																																														
3回目	【コンセプトワーク】アルバムを制作するにあたり、コンセプトを明確に表記した企画書の作成が出来る																																																																																																																																																														
4回目	【コンセプトワーク2】企画書、スケジュール表を提出(企画書スケジュールのリテイクあり) 企画の通ったグループから作品制作演習を行う																																																																																																																																																														
5回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う																																																																																																																																																														
6回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※企画書提出×切																																																																																																																																																														
7回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
8回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
9回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
10回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
11回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
12回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
13回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
14回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック																																																																																																																																																														
15回目	【OC(質問事項に対しての講義)】スケジュールと制作演習を行う、現地点での制作楽曲のプレゼンが出来る																																																																																																																																																														
準備学習 時間外学習	授業だけではまかないきれないので、時間外の制作がほとんどになると思います。 たくさん曲を制作することになりますので、自分の表現したいイメージを十分に膨らませておいてください。																																																																																																																																																														
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	レポート60%(進捗報告とクオリティチェックで判断) 課題成果40%(クオリティチェック後の次回授業での報告で評価)																																																																																																																																																												
受講生への メッセージ	NSMで学んできたこと、経験してきたことの集大成を作り上げる卒業制作プロジェクトです。 音楽的クオリティの追求からアートワーク作成、各々が自身の活動に合うコンテンツ作成までをつくりあげます。 全力を尽くして作品創作に臨みましょう。																																																																																																																																																														
【使用教科書・教材・参考書】 プロットを作成するシーンが多いため、必ず専用のノートと筆記用具を持参。 (シャープペンシルや鉛筆など、消すことが可能なステーションナリー推奨) 必要に応じて保存メディア・個人ストレージを用意																																																																																																																																																															

科目名 (英)	プロジェクトワーク (project work)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	井上 直
学科	音楽テクノロジー	授業 形態	講義 または 演習	総時間 (単位)	5	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	月曜3～7限
【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する） コンセプトワークからコンポーズ・アレンジ、ブッキング・レコーディング・ディレクション・マスタリング・パッケージ・納品・コンテンツ作成まで各々が現場に立ち、プロデュースを行う。本授業を通し、グループワークと柔軟性を習得する。近年のクリエイターの活動傾向を鑑みて、楽曲・志向・活動等を具体的且つ視覚的にデザインし、“アピール”するというマインドを習得する。 ※実務者経験：株式会社ポニーキャニオン所属 主業務はマニピュレーター&キーボード、作曲、編曲をはじめ、レコーディングからディレクション、マスタリング、オーサリングまで担当							
【到達目標】 ◆コンセプト・プロット・企画書完成、作曲・アレンジに取りかかり、コンテンツ完成までの50%以上が完了。 ◆流行のコンテンツサービスをはじめ、音楽・動画配信の定義と仕組み説明ができるようになる。 ◆著作物を扱うリテラシーを習得する。 ◆本授業通して自身の活動スタイルに合わせたコンテンツを発見する。							
授業計画・内容							
1回目	【コンセプトワーク】アルバム制作のスケジュール確認						
2回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
3回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
4回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
5回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
6回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
7回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
8回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
9回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
10回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
11回目	【制作演習】CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
12回目	【制作演習】CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
13回目	【制作演習】CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
14回目	【制作演習】CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック						
15回目	【制作演習】CDアルバム制作、楽曲のプレゼンが出来る						
準備学習時間外学習	授業だけではまかないきれないので、時間外の制作がほとんどになると思います。 たくさん曲を制作することになりますので、自分の表現したいイメージを十分に膨らませておいてください。						
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	レポート60%(進捗報告とクオリティチェックで判断) 課題成果40%(クオリティチェック後の次回授業での報告で評価)				
受講生へのメッセージ	NSMで学んできたこと、経験してきたことの集大成を作り上げる卒業制作プロジェクトです。 音楽的クオリティの追求からアートワーク作成、各々が自身の活動に合うコンテンツ作成までをつくりあげます。 全力を尽くして作品創作に臨みましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】 プロットを作成するシーンが多いため、必ず専用のノートと筆記用具を持参。 (シャープペンシルや鉛筆など、消すことが可能なステーションナリー推奨) 必要に応じて保存メディア・個人ストレージを用意							

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	コンポジションプロジェクト I (Composition Project)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	井上 直
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義 または 演習	総時間 (単位)	2	開講区分	前期
コース	全コース					曜日・時限	月曜5,6限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

コンセプトワークからコンポーズ・アレンジ、ブッキング・レコーディング・ディレクション・マスタリング・パッケージ・納品・コンテンツ作成まで各々が現場に立ち、プロデュースを行う。本授業を通し、グループワークと柔軟性を習得する。近年のクリエイターの活動傾向を鑑みて、楽曲・志向・活動等を具体的且つ視覚的にデザインし、“アピール”するというマインドを習得する。

※実務者経験：株式会社ポニーキャニオン所属 主業務はマニピュレーター&キーボード、作曲、編曲をはじめ、レコーディングからディレクション、マスタリング、オーサリングまで担当

【到達目標】

◆コンセプト・プロット・企画書完成、作曲・アレンジに取りかかり、コンテンツ完成までの50%以上が完了。

◆流行のコンテンツサービスをはじめ、音楽・動画配信の定義と仕組み説明ができるようになる。

◆著作物を扱うリテラシーを習得する。

◆本授業通して自身の活動スタイルに合わせたコンテンツを発見する。

授業計画・内容		
1回目	【オリエンテーション】卒業制作のレギュレーションとフローの説明、目標設定発表、グループ決め、スケジュール表を制作する	
2回目	【講義】CDのメリットデメリット、配信のメリットデメリット、また情報を発信できるサイトやツール・SNSの紹介・特色を分析出来る	
3回目	【コンセプトワーク】アルバムを制作するにあたり、コンセプトを明確に表記した企画書の作成が出来る	
4回目	【コンセプトワーク2】企画書、スケジュール表を提出(企画書スケジュールのリテイクあり) 企画の通ったグループから作品制作演習を行う	
5回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う	
6回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※企画書提出×切	
7回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック	
8回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック	
9回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック	
10回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック	
11回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック	
12回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック	
13回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック	
14回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック	
15回目	【OC(質問事項に対しての講義)】スケジュールと制作演習を行う、現地点での制作楽曲のプレゼンが出来る	
準備学習 時間外学習	授業だけではまかないきれないので、時間外の制作がほとんどになると思います。 たくさん曲を制作することになりますので、自分の表現したいイメージを十分に膨らませておいてください。	
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
レポート60%(進捗報告とクオリティチェックで判断) 課題成果40%(クオリティチェック後の次回授業での報告で評価)		
受講生への メッセージ	NSMで学んできたこと、経験してきたことの集大成を作り上げる卒業制作プロジェクトです。 音楽的クオリティの追求からアートワーク作成、各々が自身の活動に合うコンテンツ作成までをつくりあげます。 全力を尽くして作品創作に臨みましょう。	

【使用教科書・教材・参考書】

プロットを作成するシーンが多いため、必ず専用のノートと筆記用具を持参。
(シャープペンシルや鉛筆など、消すことが可能なステーションナリー推奨)

必要に応じて保存メディア・個人ストレージを用意

名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校 2026年度 シラバス

科目名 (英)	コンポジションプロジェクトⅠ (Composition Project)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	井上 直
学科	音楽テクノロジー科	授業 形態	講義 または 演習	総時間 (単位)	2	開講区分	後期
コース	全コース					曜日・時限	月曜5,6限
【授業の学習内容】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) コンセプトワークからコンポーズ・アレンジ、ブックイング・レコーディング・ディレクション・マスタリング・パッケージ・納品・コンテンツ作成まで各々が現場に立ち、プロデュースを行う。本授業を通し、グループワークと柔軟性を習得する。近年のクリエイターの活動傾向を鑑みて、楽曲・志向・活動等を具体的且つ視覚的にデザインし、“アビール”するというマインドを習得する。 ※実務者経験：株式会社ボニーキャニオン所属 主業務はマニピュレーター&キーボード、作曲、編曲をはじめ、レコーディングからディレクション、マスタリング、オーサリングまで担当							
【到達目標】 ◆コンセプト・プロット・企画書完成、作曲・アレンジに取りかかり、コンテンツ完成までの50%以上が完了。 ◆流行のコンテンツサービスをはじめ、音楽・動画配信の定義と仕組み説明ができるようになる。◆著作物を扱うリテラシーを習得する。◆本授業を通して自身の活動スタイルに合わせたコンテンツを発見する。							

授業計画・内容			
1回目	【コンセプトワーク】アルバム制作のスケジュール確認		
2回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック		
3回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック		
4回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック		
5回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック		
6回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック		
7回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック		
8回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック		
9回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック		
10回目	【OC(質問事項に対しての講義)】制作グループ面談(または個人面談) スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック		
11回目	【制作演習】CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック		
12回目	【制作演習】CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック		
13回目	【制作演習】CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック		
14回目	【制作演習】CDアルバム制作スケジュールと制作演習を行う ※クオリティチェック		
15回目	【制作演習】CDアルバム制作、楽曲のプレゼンが出来る		
準備学習 時間外学習	授業だけではまかないきれないので、時間外の制作がほとんどになると思います。 たくさん曲を制作することになりますので、自分の表現したいイメージを十分に膨らませておいてください。		
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	レポート60%(進捗報告とクオリティチェックで判断) 課題成果40%(クオリティチェック後の次回授業での報告で評価)
受講生への メッセージ	NSMで学んできたこと、経験してきたことの集大成を作り上げる卒業制作プロジェクトです。 音楽的クオリティの追求からアートワーク作成、各々が自身の活動に合うコンテンツ作成までをつくりあげます。 全力を尽くして作品創作に臨みましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			
プロットを作成するシーンが多いため、必ず専用のノートと筆記用具を持参。 (シャープペンシルや鉛筆など、消すことが可能なステーションナリー推奨) 必要に応じて保存メディア・個人ストレージを用意			